

## « 内部精度管理 »

### 内部精度管理の評価指標

- 評価項目：1.目的：検査精度を担保するための目的が記載されている
- 2.運用方法：技師間差について、精度管理手順や実施方法が記載されている
- 3.評価方法：精度管理について結果の評価方法や評価基準が記載されている
- 4.是正方法：技師間差評価の基準を満たさない場合に対して、是正方法の記載や  
是正措置を実施している
- 5.実施記録の確認：勉強会、カンファレンス、目合わせ等の実施記録の記載がある

評価基準：A 評価：評価項目が、4項目以上記載されている

B 評価：評価項目が、2～3項目記載されている

C 評価：評価項目が、1項目のみ記載されている

※ 評価項目 1～4：施設内で運用している文書を PDF 化して提出

評価項目 5：記録を PDF 化して提出内部精度管理の評価指標

## ◆ 評価サンプル

### 1. 目的：検査精度を担保するための目的が記載されている

技師間差や目あわせを行う目的や方法の要約など

#### 1. 目的

この手順書の目的は、生理検査室における日常の作業に関し、正確性と再現性の上で患者データの測定値を保証できる管理範囲内で運営されていることを確認し、逸脱が予想される場にはそれを

資料より一部抜粋

### 2. 運用方法：技師間の精度管理についての手順や実施方法が記載されている

技師間差マニュアル（手順）または技師間差評価の方法など

#### 2. 実施手順

- 1) 被検者：前日までに被検者となるスタッフを選出し、実施当日は昼食後に絶食とする。
- 2) 対象者は以下の断面を描出および計測する2.1 肝左葉縦断像描出法:心窩部縦断走査にて肝左葉矢状断面を描出する。肝左葉後方に腹部大動脈が描出されるようにすること。

#### 3.6. 目あわせ

##### 1) 症例検討

████████、超音波検査、████████について日常検査での典型症例、非典型症例、検査に難渋した症例、興味をもった症例等の検討会を実施する。

資料より一部抜粋

### 3. 評価方法：精度管理について結果の評価方法や評価基準が記載されている

技師間差マニュアル（結果の評価や基準）または技師間差評価の方法など

#### 4. 内部精度管理

##### 4.1. 評価項目

定期的に6ヶ月に1回、超音波検査装置、[REDACTED]について実施する。

また、「目合わせチェック」としては定期的に月2回、症例検討または勉強会を開催する。

資料より一部抜粋

### 4. 是正方法：是正方法の記載がある

技師間差評価の基準を満たさない場合に対して、是正方法の記載や是正措置を実施している

#### 6. 評価・是正

- 1) 基準値と各検者の計測値を比較し、技師間誤差を求める。
- 2) 基準値は部門管理者の計測とする2検者間誤差が明らかに逸脱した要員に関しては、指導を行った上で再度評価を行う。

#### 3.7. 是正方法

- 1) 不適合となった要員に関しては、指導をおこなった後に再評価を実施する。

資料より一部抜粋

### 5. 実施記録の確認：勉強会、カンファレンス、目合わせ等の実施記録の記載がある

#### 技師間差確認記録

#### 技師間差確認記録

確認日：[REDACTED]年 [REDACTED]月 [REDACTED]日 確認日：[REDACTED]

検査項目：超音波検査項目：超音波

被検者：[REDACTED] 検査者：[REDACTED] 使用機種：TUS-A400(14-2E4-608) 使用機種：TUS-A400(14-2E4-608)

検査項目 被検者名	肝左葉縦断像				脾縦断像			
	(A) 上下径(A) 上下径	(B) 前後径(B) 前後径	(C) 脾門部-脾下端距離(C) 脾門部-脾下端距離	(D) 脾門部-ドーム直下距離(D) 脾門部-ドーム直下距離				
基準値	95.2	実施日 基正実正後基正 mm	56.9	実施日 基正実正後基正 mm	54.4	基正実正日 基正実正後基正 mm	31.6	基正実正日 基正実正後基正 mm
1	93.3	mm	54.2	mm	52.9	mm	34.4	mm

資料より一部抜粋